

表18 金属製品観察表（煙管）

検査番号	出土地点		種別	計測値 (cm)						備考	M番号	R番号
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e	f			
96-6	B-4	4-401	煙管	3.9	2.45	0.6	1.4	0.95	0.4	大皿(M19)様合 肩付?肩欠失	2040014	R4-108
96-2	B-4	4-401	煙管	7.3	2.4	1.0	0.8	0.5		大皿欠失	2040026	R4-027
96-8	B-4	4-401	煙管	4.3	3.5	0.7	1.5	1.2		大皿左右に小孔	2040039	R4-036
96-7	C-4	10-1005	煙管	5.1	2.55	0.6	1.2	1.0	—	緒掛帯付 肩付? 肩欠失	2100095	R10-97
96-1	C-3	10-1005	煙管	7.6	3.0	1.1	1.5	0.8		鍍金	2100112	R10-44
96-3	C-3	10-1005	煙管	6.45	2.35	0.9	1.4	0.9	2.3	緒掛帯付 肩付	2100021	R10-44
96-10	B-7	02-49クラン	煙管	4.1	1.75	0.0	1.0	0.7	—	太くて短い	2040011	R3-033
96-14	B-4	4-401	煙口	5.1	1.0	0.4	1.75				2040025	R4-008
96-11	B-4	4-401	煙口	6.2	1.1	0.4	2.2				2040004	R4-054
96-12	B-4	4-401	煙口	10.1	1.15	0.4	—				2040040	R4-058

百聞堀東側

検査番号	出土地点		種別	計測値 (cm)						備考	M番号	R番号
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e	f			
96-18	C-8	3-227	一休型	15.85	1.2	0.4	13.2	—		刀豆形煙管	2030180	R3-027
96-17		02-3 百聞堀	一休型	11.5	1.6	0.6	—	—		延べ煙管? 大皿欠失	2030349	
96-3	A-7	3-09	煙管	7.8	2.9	1.1	1.6	1.1		緒掛帯付 鍍金	2030074	R3-252
96-9	C-8	3-214	煙管	3.8	2.05	0.7	1.6	0.8		肩付? 肩欠失	2030037	R3-494
96-4		02-3 百聞堀	煙管	6.0	2.3	0.8	1.3	0.7		緒掛帯付	2030038	R3-020
96-13	A-7	3-61	煙口	7.2	0.75	0.4	—				2030072	R3-206
96-16	A-8	3-50	煙口	7.4	1.2	0.4					2030151	R3-128
96-15	C-6	3-226	煙口	7.9	1.0	0.4					2030201	R3-066

表19 金属製品観察表（日用品・その他）

検査番号	出土地点		種別	計測値 (cm)					備考	M番号	R番号	
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e				
97-3	C-3	10-1005	鉢	14.3	0.2	5.35				2100059	R10-174	
97-2	C-7	9-02	火打金	4.06	11.4	0.35				2090001	R9-083	
97-9	C-7	9-04	火釜	25.5	0.75	0.55				2090048	R9-099	
97-10		4-534	火釜	32.05	0.6	0.6				2090135	R4-381	
97-12		10-1005	高平金具	9.2	8.6	0.6				取り 約半分欠失	2100107	R10-241
97-13	C-4	10-1006	鍍金金具	10.5	20.25	0.25				奥端約断欠	2100001	R10-32
97-11	C-4	10-1006	鍍金金具	10.4	17.45	0.15				取り 奥端に円孔	2100028	R10-45
97-14	C-4	10-1006	鍍金金具	10.4	17.3	0.2				板状 奥端に円孔	2100102	R10-97
97-7	C-3	10-1005	銅線	19.4	0.35	総幅3.75	厚 0.2				2100103	R10-602
97-4	B-4	4-401	門扉金物	8.9	8.9	0.25					2040034	R4-026
97-8	C-7~8	9-02	漆状製品	20.1	0.65	0.55				工具?	2090032	R9-021
97-15		02-4 百聞堀	空室蓋	長11.05	底径1.7	口径1.2				大徳製 使用済	2040045	

百聞堀東側

検査番号	出土地点		種別	計測値 (cm)					備考	M番号	R番号	
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e				
97-1	C-7	3-213階内灰層層	漆丁	21.4	17.0	3.6	3.9	0.2		裏切柄丁	2030273	R3-687
97-5	B-7	3-209	漆	6.7	1.8	0.6				2030210	R3-056	
97-6	B-6	3-53	漆	3.9	1.8	0.4				2030114	R3-123	

本丸・二ノ丸・三ノ丸は、石壁および城濠ほとんど旧の如く現存し、転々昔時の規模を偲ばしむ。外郭は諸所に濠址の存するあるも、ほとんど旧形を失いて市街地に編入されたり。

本城の形式は全然平城に属し、石壁高からず城濠深からず領主の居館として設計されたる点を見るべしと雖も、大手・搦手の備えは嚴重にして櫓および城門の規模整備せるを見る。然れども、その城域の極めて広濶なるは七十萬石の城地に相当せるものと云うべく、本邦稀に見る城址なり。

然して、その最も尊重すべきは、城の主要部は石壁城濠など損所なく保存せられたる事にして、将来に於いてもこれが保存に注意すべし。もし、これら石壁および付近地形の変更に際しては、予め実測図を造り、写真によりて各部を撮影して、図上保存の目的に供すべし。

上田三平 1921「第二十章 福井城址」『若狭及越前に於ける奈良朝以降の主なる史蹟』
福井県史蹟勝地調査報告第二冊 福井県内務部より、一部改変

以上の文章は、大正 10(1921)年当時の福井城の現状を伝えるものである。外曲輪については、既に市街地化が進行しているようであるが、城郭中枢部の石垣・堀などには、まだ手が加えられていないことが分かる。この文章の警告は、残念ながら一般に受け入れられることはなく、復元可能なまでの詳細な図・写真のないままに、石垣は崩され、堀は埋められ、城郭は市街地化していった。

現在の福井城は、本丸の周囲にその面影を残すのみとなっている。しかし、市街地の中に見られる路面などの高低差や古い市街地の街割には、かつての曲輪の配置や街区の状況が反映されており、辛うじて窺うことが可能である。そして、埋め立てられた堀や石垣の下部構造は、地下に比較的良好な状態で残存している。ただし、今回の調査で明らかのように、生活面・遺構面そのものは、度重なる路盤改良などのために既に削平されており、廃棄土坑や井戸など大型の遺構が残存するのみであった。

近年、中心市街地、とくに福井駅周辺での再開発事業が活発となっている。今回の調査の契機である福井駅西口地下駐車場建設も、その一環である。更なる大規模開発、新たな区画整理の進行は、辛うじて残存する遺構や堀・石垣を破壊・消滅へと導き、曲輪や街区の状況を伝える街割の喪失を促すこととなる。福井城は、本丸以外は既に眼に触れない状態であるが、完全に失われているわけではない。90年前の姿に戻すことは不可能であるが、辛うじて残存する痕跡が消滅してしまう前に詳細な記録を留め、後世に伝えて行かなくてはならない。(御嶽)